

# 御前山ビオトープ通信

平成21年5月31日

第23号

編集： NPO「美しい田園21」 清野

メール：[denen21@hb.tp1.jp](mailto:denen21@hb.tp1.jp)ホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

## 目次

- 1 御前山ダム環境センターについて
- 2 平成21年度第1回育成作業を実施  
：5月26日（火）
- 3 移植種の生育状況

## 【案内図】



## 1 御前山ダム環境センターについて

御前山ビオトープはダム建設に伴って稀少植物を移植したことに始まりますが、生き物が対象のため、その管理が大変重要です。ダム工事は順調に進みあと数年で完成の見通しとなる一方で御前山村は広域合併して常陸大宮市となるなど周辺状況も変化してきました。

このような中で国営那珂川沿岸農業水利事業所から財団法人日本グラウンドワーク協会に対して、長期的な視点での管理のあり方について検討が委託されました。

この報告を踏まえて、関係者間で何度も打ち合わせを行い、広域的な連携体制、ダムの周辺整備など活動範囲の拡大、人材や財源の確保などについて検討し、新たな推進体制として「御前山ダム環境センター」を設立することとし、5月連休中の5月6日に桜山地区の総会で基本方針が確認されました。

ビオトープについては今までどおり桜山集落の皆さんが中心となりますが、同センターに部会を設置して支援体制を強化し、管理を継続していく予定です。近いうちに、関係機関と調整し、設立に向けた準備を行いますので、多くの皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

## 参加者



## 2 平成21年度第1回育成作業を実施

5月26日（火）平成21年度第1回目のビオトープ育成作業を行いました。当日は気持ちの良い五月晴れで、地元参加者は9時にはほとんどが集合して作業が始まりました。また10時には遠くは東京などを含めてNPO関係者も到着し、参加者は80名近くになりました。予想以上の参加者で駐車場が狭く迷惑をかけてしまいましたので、次回は草刈して拡張しましょう。

国営事業所の尾崎所長、長山前御前山村長、国安檜山区長か



古代米の田植え



ら挨拶のあと、作業説明が行われ、それぞれの持ち場に別れて作業が始まりました。

今年も恒例の古代米の田植えを行いました。黒米、緑米、赤米ですが大人の多人数なのですぐに終了しました。

草刈はナルコリ、ヤマコなどの自生する法面を除く一帯で、今回は動力刈払い機がたくさん集まり戦力アップしてこちらも順調に進み、一時間半ほどで見違えるようにきれいになりました。特に今回は今まで全く手を入れていなかった上部の田んぼが葦の優勢を通り越して閉塞状態とも言える状況になっていたので、全面的に草刈を行いました。湛水して水面が見える程度にすればハチョウトンボも増えるかもしれません。

林間のフカアオイ、イシヨウマの周辺も手作業しかありませんが選伐除草してスッキリしました。

課題のアギナシは当初、昨年植替えた田

んぼが草むらとなり全く確認できない状態でしたが、手でかき分けてみると雑草に圧倒されて危機的な状況ではありましたが残っていました。分けつした小さなものは探すのも大変で知らずに踏みつけるような小さな幼苗もありましたが、さっそく皆の手作業で除草作業の結果、かなりの株数を確認できました。

今回、最も大変な力作業は下池に繁茂した葦、ガマなどの除去作業です。昨年途中まで行いましたが、今回は時間と人数をかけたお陰でほぼ整理できました。草むらから黄色い花をつけたヨシの群落やショウブも出てきて新たな観察スポットになりそうです。

なお、当日は地元「大宮新聞」の取材もありました。また、今回は婦人の参加も多く、地元の食材を使った美味しい昼食までいただきありがとうございました。

### 3 移植種の生育状況

林間生のフカアオイやイシヨウマは間伐などで日照を調整したこともあり見事な群落にまで生長しました。湿地生のアギナシは競争相手のいない田んぼがお気に入りなので、クノアジと同様に周辺の雑草に負けないように手をいれれば問題なさそうです。

今回水生のカエミクリについては手をかけず観察することにしましたが、適正水温や土壌条件などをもう少し調べる必要があるかもしれません。水温に問題なければ上の池も候補地です。

